

つながりあう・多世代交流

～「こども・子育て支援団体の
実態調査」を踏まえて～

一般財団法人仙台こども財団

理事長 湯浅 誠

本日お話ししたいこと

1. 仙台こども財団のこれまでの取組
2. 実態調査を踏まえて
3. 居場所を増やす ～「どこも」と「どこか」～
4. 財団としてこれから取り組みたいこと

1. 仙台こども財団のこれまでの取組

仙台こども財団は設立1周年を迎えました



シンポジウム



こども・若者会議



男性育休取得支援



まち全体がこどもや子育て家庭を応援し、こどもたちが安心して成長することができる社会の実現に向けて、市や地域で活動をされている方々、民間企業等のみなさまからお話を伺いながら、取組を進めています。

財団のビジョン・ミッション

ビジョン（財団が実現したい未来の姿）

- * まち全体がこども・子育て家庭にあたたかく、
すべてのこどもたちが健やかに育つ社会

ミッション（財団が取り組むこと）

- * こどもたちからの提案と一緒に実現します
- * 多世代交流を促進し、人と人とのつながりを育みます
- * こども・若者・子育て支援ネットワークの輪を広げます

令和6年度の取組①

【こども・若者会議(第1期生)】

「みんなが幸せなまちになるといいな」という想いを「こども・若者会議」で話し合い、みんなで実現にチャレンジ!

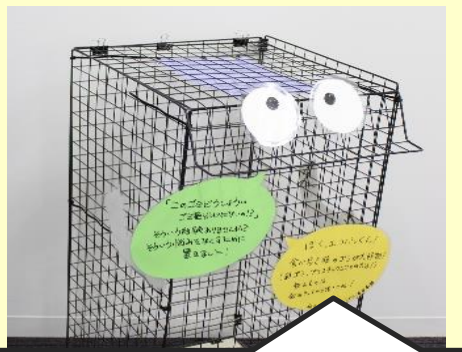


小学4年生から
高校2年生まで
計20人のメン
バーが活動して
います!

こどもたちの企画イベント①

「こわか☆クリーンアップwith」

日時: 令和6年10月19日(土)



みんなでゴミ拾いをして、
芋煮を食べました!



手づくりゴミ箱
「エコパックくん」を
1日設置しました!



こどもたちの企画イベント②

「仙台こわかフェスティバル」

日時: 令和6年11月30日(土)



みんなで出店を考えて、
お祭りを開催しました!



ゲームや実験
コーナーも!

わたあめ、ポップ
コーン、蛇口
からジュースを
提供しました!

令和6年度の取組②

【男性育休(パパ育休)取得チャレンジ企業創出】
モデル企業4社に社労士派遣を行っています！

(株)関・空間設計さま



リバーランズ
エンジニアリング(株)さま



(株)manabyさま



(株)力道電設さま



【男性育休当事者向けセミナー】

これからの
パパ・ママ必見
「男性育休の重要
性について学ぶ」
セミナー開催予定

これからのパパ・ママ必見
パパの育児休業の
重要性について学ぶ
セミナー 参加無料 会場内託児あり

～ みんなで考える子育てのスタートライン ～

パパもママもお互いに支え合いながら子育てできるよう、
これから子育てをはじめの方、パパ育休の取得を検討している方向けに
セミナーを開催します。
プレパパ・プレママ、学生さんや企業にお勤めの皆様も、
これから育児に関わる当事者として、
ぜひ一緒に育児休業について考えてみませんか。

日時 令和7年 1.25(土) 14:00～16:30
(受付13:30～)

会場 仙台市青葉区国分町 3-6-1
仙台パークビル4階
仙台こども財団事務局
サロンスペース

対象 プレパパ・プレママ及びそのご家族、学生、人事労務
担当者、育児・育児休業について興味をお持ちの方

参加方法 ■会場参加(先着60名)
※託児は10名まで(先着順)
■オンライン参加(限定100名)
※1部2部のみ配信となります。(16:00終了)
※後日URLをお送りいたします。

会場アクセス

〒980-0001 仙台市青葉区国分町3-6-1 仙台パークビル4階
仙台こども財団事務局サロンスペース

地下鉄：仙台市地下鉄南北線 国分町駅 徒歩5分
※駐車場はございませんので、公共交通機関又は近隣の
有料駐車場をご利用ください。

◎ 詳しくは裏面をご確認ください ◎

日時: 令和7年1月25日(土)14時～
場所: 仙台こども財団内
対象: プレパパ・ママ、パパ・ママ、
育休に興味のある方
内容: 助産師の講話、
育休取得者のトークセッション、
参加者間の交流会

令和6年度の取組③

【児童福祉セミナー】

「こどもの自己肯定感を育む関わり方」をテーマとしたセミナーを開催します！（全2回）
対象：こどもに関わる業務や活動をされているすべての方

<第1回目> 日時：令和7年2月1日(土)14時～
会場：オンライン講演(zoom)

<第2回目> 日時：令和7年2月15日(土)14時～
会場：仙都会館8階会議室

【調査・研究】

令和6年7月に「こども・子育て支援団体の実態調査」を実施しました。

2k-c20241126_おもて



こどもの自己肯定感を育む関わり方

参加無料

関わり方

天野 ひかり 講師

NPO法人親子コミュニケーションラボ代表理事
NHK「すくすく子育て」元 キャスター
親子コミュニケーションアドバイザー/
フリーアウンサー

NHK「すくすく子育て」のキャスター(2005～08年)を経て、現在は、NPO法人親子コミュニケーションラボ代表理事、親子コミュニケーションアドバイザーとして、親子向けのトークショーやコミュニケーションに関する講演会など多方面で活躍。著書「子どもを伸ばす言葉 実は否定している言葉」など。

第1回目

令和7年 2月1日(土) 14時～15時30分

オンライン講演

会場：オンライン講演(zoom)

人数：こどもに関わるすべての方 100名
(支援団体、保育士、幼稚園教諭、教育関係者、子育て当事者等)

内容：子育てで大切なたった一つのこと～言葉掛けの3ステップ

●こどもの自己肯定感を育むための言葉掛けについて学びます。

第2回目

令和7年 2月15日(土) 14時～16時(受付13:40)

ワークショップ

会場：仙都会館8階会議室
宮城県仙台市青葉区中央2-2-10

人数：第1回目参加者のうち、こどもと関わる仕事をしている 40名

※応募多数の場合は抽選となります。抽選の結果については、1/31(金)までにご連絡いたします。

※第2回目の研修は、第1回目の研修を受講した方が、こどもと関わる仕事をしている方が優先になります。

内容：こどもの主体性を高めるコツ～大人のエンパシーの視点～

●グループワークを通してこどもの主体性を高める関わり方について考えます。

参加申し込み方法

■ホームページからのお申込み
右記のQRコードまたは下記URLよりお申込みください。
<https://sendai-kodomo.jp/service/child-welfare/>

■FAXでのお申込み
FAX 022-302-5276
裏面のお申込み欄にご記入のうえ、ご送信ください。

■受付期間 12月16日(月)～1月24日(金)まで

当日の写真をホームページやSNS等に掲載いたします。また、当日はマスクの着用が推奨されます。あらかじめご了承ください。

主催 一般財団法人仙台こども財団 お問い合わせ 一般財団法人仙台こども財団 総務課 TEL: 022-302-5275 MAIL: info@sendai-kodomo.jp

2. 実態調査を踏まえて

実態調査の概要

【目的】 こども・子育て支援団体の現状把握を行う
支援団体・企業・関係機関等相互の連携・協働の促進を図る

【対象及び方法】

期間	令和6年7月10日(水)から 8月10日(土)まで
調査票の 送付・回収方法	メールでの送付・WEB回答
対象	仙台市域を中心に活動する こども・子育て支援団体
送付数	630件
回答数	223件

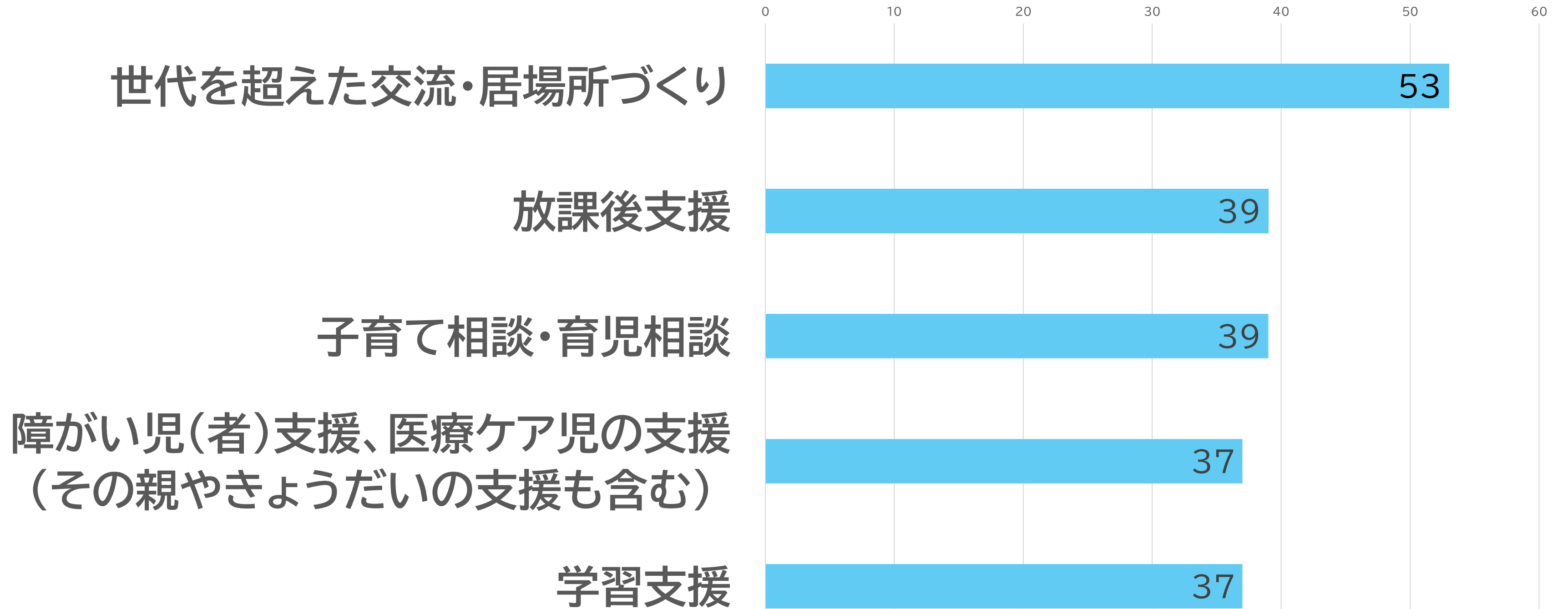
【内容】

- 1 団体の現状について
- 2 連携・協働について
- 3 広報について
- 4 地域社会全体でこども・子育てを
支えるために必要だと思うこと
- 5 仙台こども財団に対するご意見

調査からみえてきたもの①

【活動分野について】

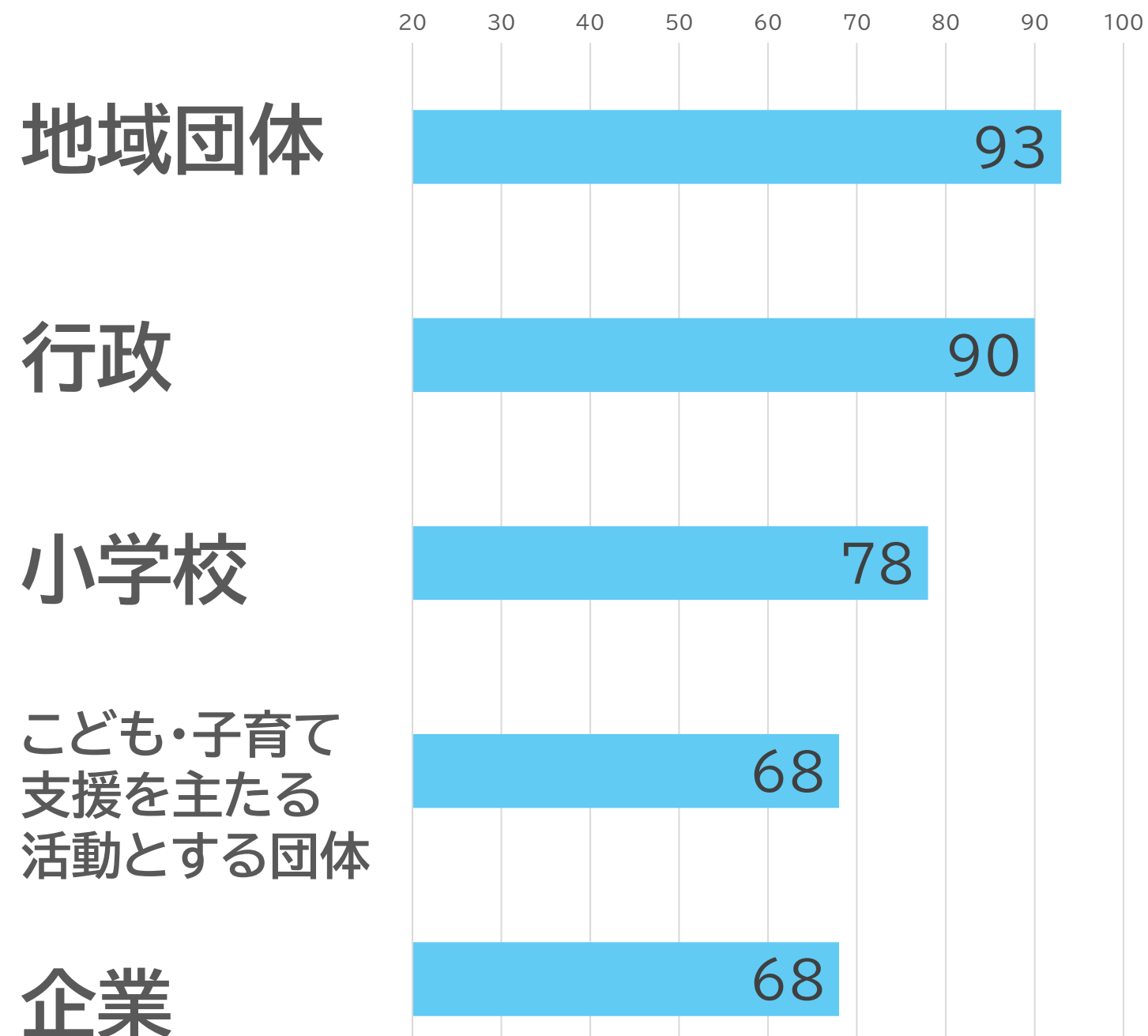
問19. 貴団体の活動は次のどれに近いですか？



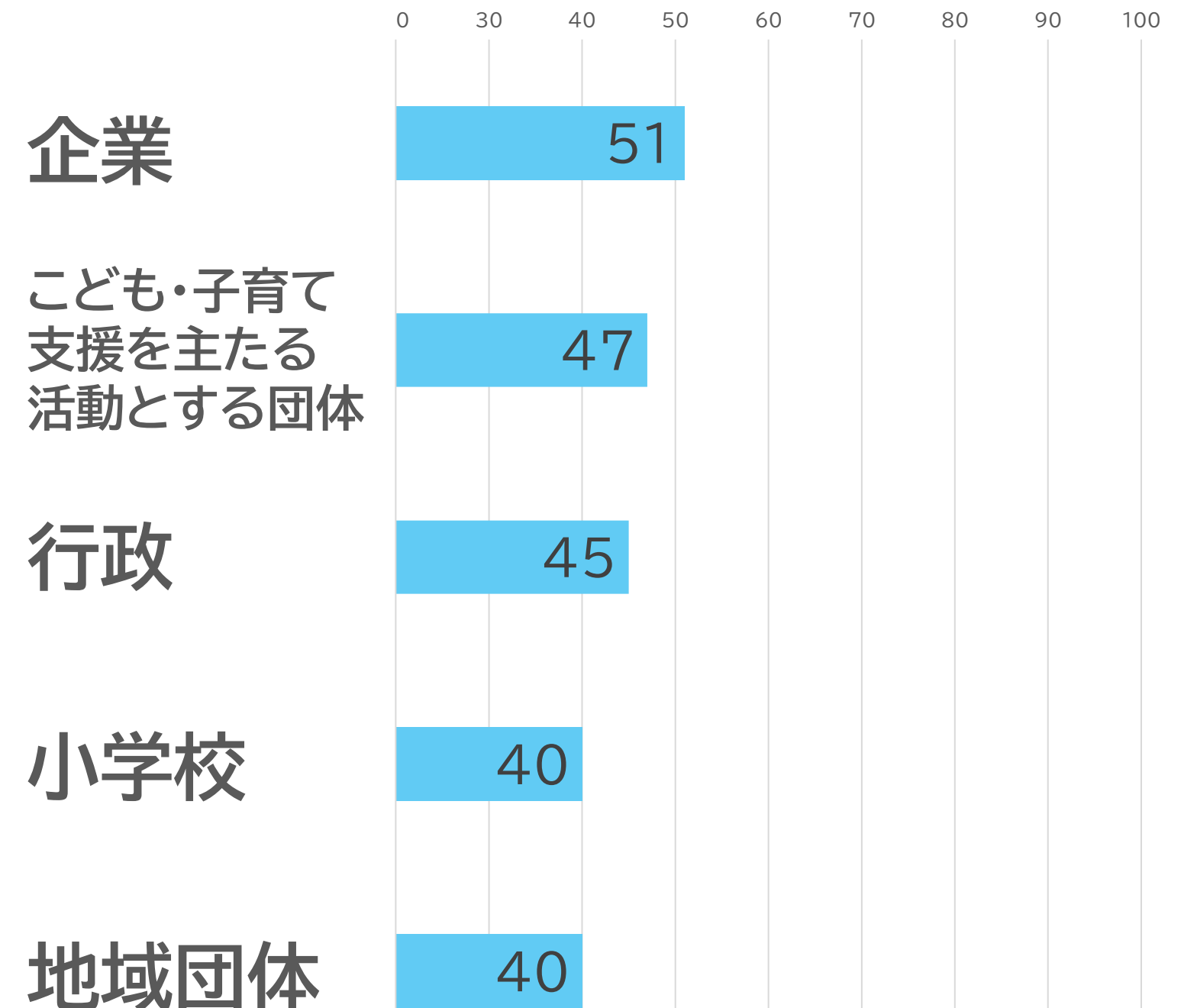
調査からみえてきたもの②

【連携先について】

問26. これまでに連携して企画・事業に取り組んだことのある団体・関係機関は？

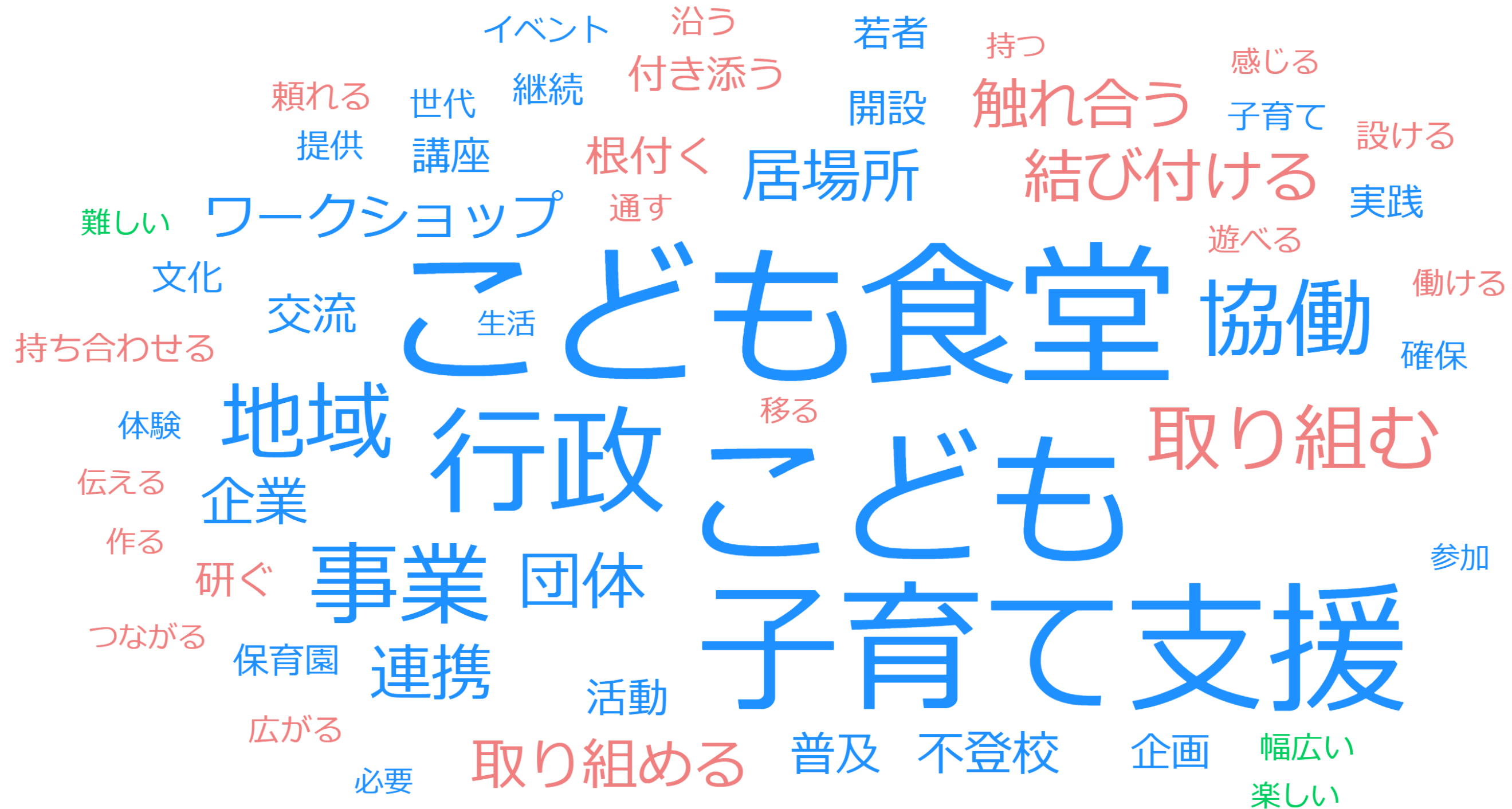


問27. 今後一緒に企画・事業に取り組みたい、ほかの団体・関係機関は？



調査からみえてきたもの③-1

問28. どのような企画・事業を、一緒に取り組んでみたいですか？



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析
(<https://textmining.userlocal.jp/>)

調査からみえてきたもの③-2

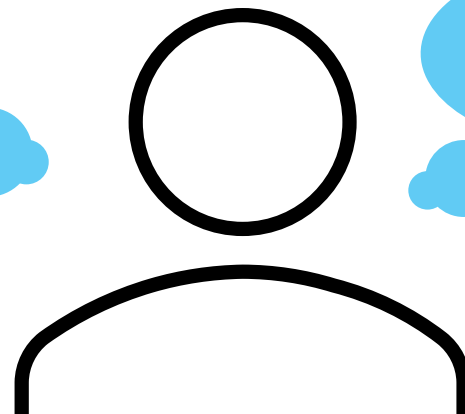
問28. どのような企画・事業を、一緒に取り組んでみたいですか？

地域課題の発見と解決
地域の担い手養成

地域の居場所づくり
こども食堂
プレーパーク

三世代交流
異年齢のこどもたちも
一緒に遊べる取組

こども・若者の職場体験・
キャリア形成支援



調査結果を踏まえて

○こども・子育て支援の活動として「世代を超えた交流

・居場所づくり」に取り組む団体が多い

○今後希望する連携先として、支援団体のほか、企業・

小学校・地域団体などが挙げられている

○“地域”、“多世代”、“連携”が今後のこども・子育て

支援のキーワード

3. 居場所を増やす ～「どこも」と「どこか」～

「こどもの居場所づくり指針（答申）」

こどもの居場所づくりに関する指針(答申)の概要①

こどもの居場所に関する背景と理念、考え方等について

こどもまんなか
こども家庭庁

背景

居場所がないことは孤独・孤立の問題と深く関係しており、こどもが生きていく上で居場所があることは不可欠。

地域コミュニティの変化

地域のつながりの希薄化、少子化の進展により、地域の中でこどもが育つことが困難になっている。

複雑かつ複合化した喫緊の課題

児童虐待の相談対応件数や不登校、自殺者数の増加など、こどもを取り巻く環境の厳しさが増している。

価値観の多様化

価値観の多様化やそれを受け入れる文化の広がりに伴い、居場所への多様なニーズが生まれている。

こうした背景によって、様々な地域で居場所づくりが実践されており、国としても考え方を示す必要がある。

理念

全てのこどもが、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや、社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動や外遊びの機会に接することができ、自己肯定感や自己有用感を高め、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で成長し、こどもが本来持っている主体性や創造力を十分に発揮して社会で活躍していけるよう、「こどもまんなか」の居場所づくりを実現する。

こどもの居場所とは

- こども・若者が過ごす場所・時間・人との関係性全てが、こども・若者にとっての居場所になり得る。物理的な「場」だけでなく、遊びや体験活動、オンライン空間といった多様な形態をとり得るものである。
- その場や対家を居場所と感ずるかどうかは、こども・若者本人が決めることであり、そこに行くかどうか、どう過ごすか、その場をどのようにしていきたいかなど、こども・若者が自ら決め、行動する姿勢など、こども・若者の主体性を大切にすることが求められる。
- 居場所の特徴として、多くのこどもにとって、学校が居場所になっていること、個人的なもので変わりやすく、地域性や目的、人との関係性などに影響を受けるものである。

こどもの居場所づくりとは

- 居場所とは、こども・若者本人が決めるものである一方で、居場所づくりは第三者が中心となっていくものであるため、両者には隔たりが生じ得る。
- こうした隔たりを乗り越えるため、こども・若者の視点に立ち、こども・若者の声を聴きながら居場所づくりを進める必要がある。
- 目的や対象者へのアプローチ方法などは多様であるが、重要なことは、様々なニーズや特性を持つこども・若者が、身近な地域において、各々のライフステージに応じた居場所を切れ目なく持つことができることである。

対象となる居場所の範囲

こどもの居場所となることを目的としてつくられた場や活動はもちろん、結果としてこども・若者の居場所になっているもの（例：学校や塾、習い事など）も、内容が当てはまる部分について、本指針を十分に踏まえることが期待される。

対象となるこども・若者の年齢の範囲

こどもであっても若者であっても、居場所を必要とすることについては同様であるが、その必要性の強弱や提供される機能の違いを踏まえ、本指針では心身の発達の過程にある「こども」を対象とする居場所づくりを中心とする。

(指針本文より)

・地域づくりにつながるものであること

こども・若者の居場所が、こども・若者のみならず、その担い手にとっても、その場が自分の居場所となり、地域における新たな交流やつながりを得られる場として機能している場合もある。

特に少子高齢化が進展する地方部においては、地域づくりの一手法として地域住民の居場所づくりが進められている。

また、こども・若者に限らず、保護者や高齢者などの地域住民が交流する場として、広く活用されている居場所もある。

こうした取組は、こども・若者にとって、地域そのものが安全・安心な居場所となることにもつながる。

こどもの居場所づくり

本指針の性質

多世代交流、世代間交流、ごちやませ、ませこそぜ

地域共生
高齢者の居場所づくり



こどもの居場所づくり

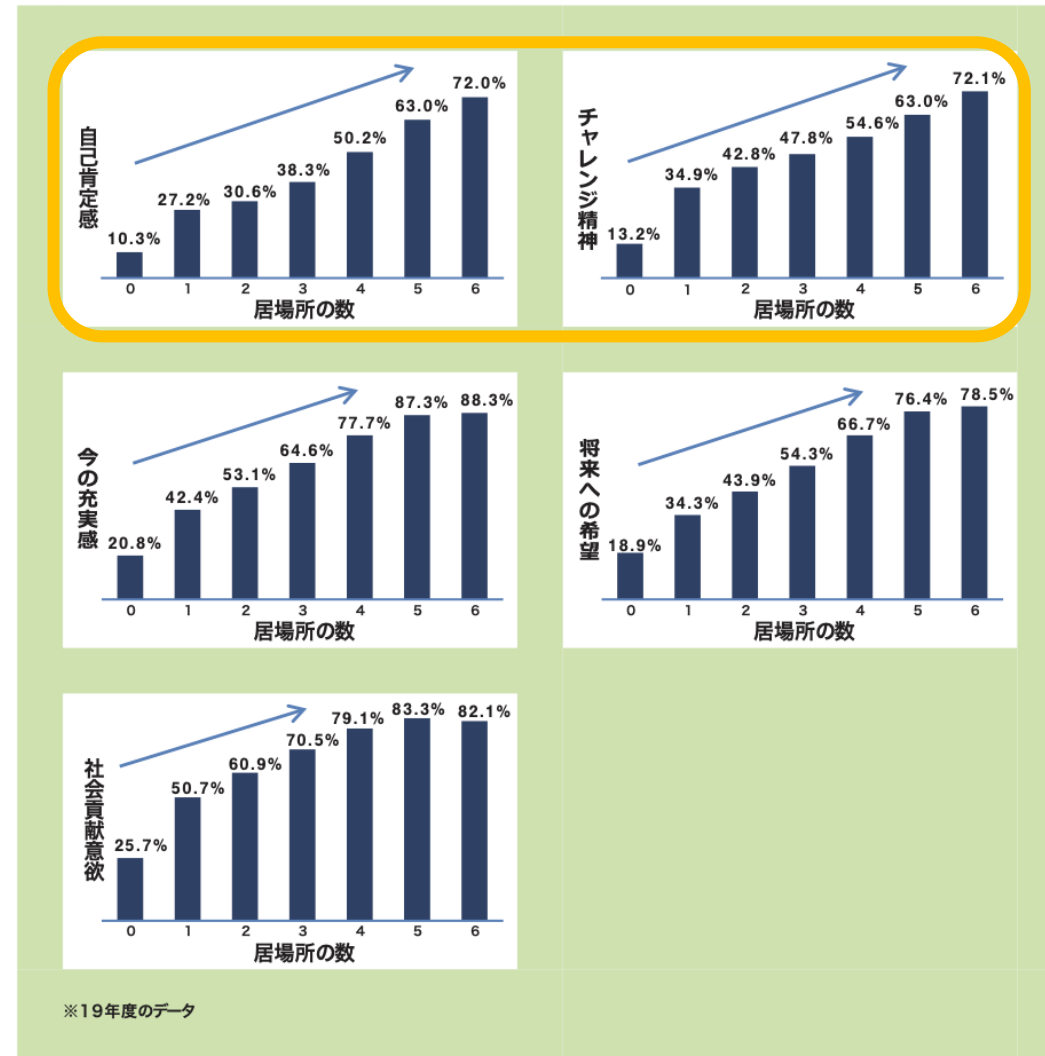


地域づくり

居場所の数が多いほど、自己肯定感高く、チャレンジ精神旺盛に

内閣府「子供・若者インデックスボード」https://www8.cao.go.jp/youth/index_board/pdf/print.pdf

⑥居場所の数と自己認識の関係

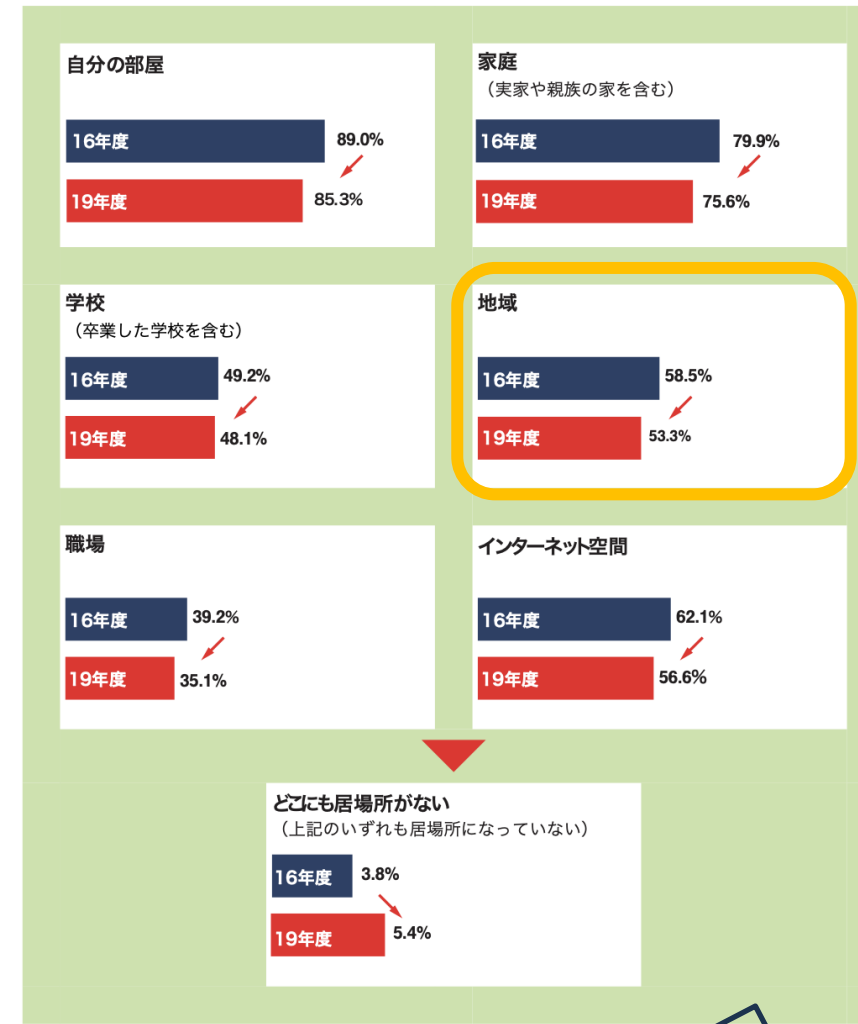


居場所の数（自室、家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の向きは、概ね相関。

居場所の数が多いほど、こどもの自己肯定感が高く、チャレンジ精神も旺盛になる
↓
家庭・学校が居場所になっているこどもにも第3第4第5...の居場所を

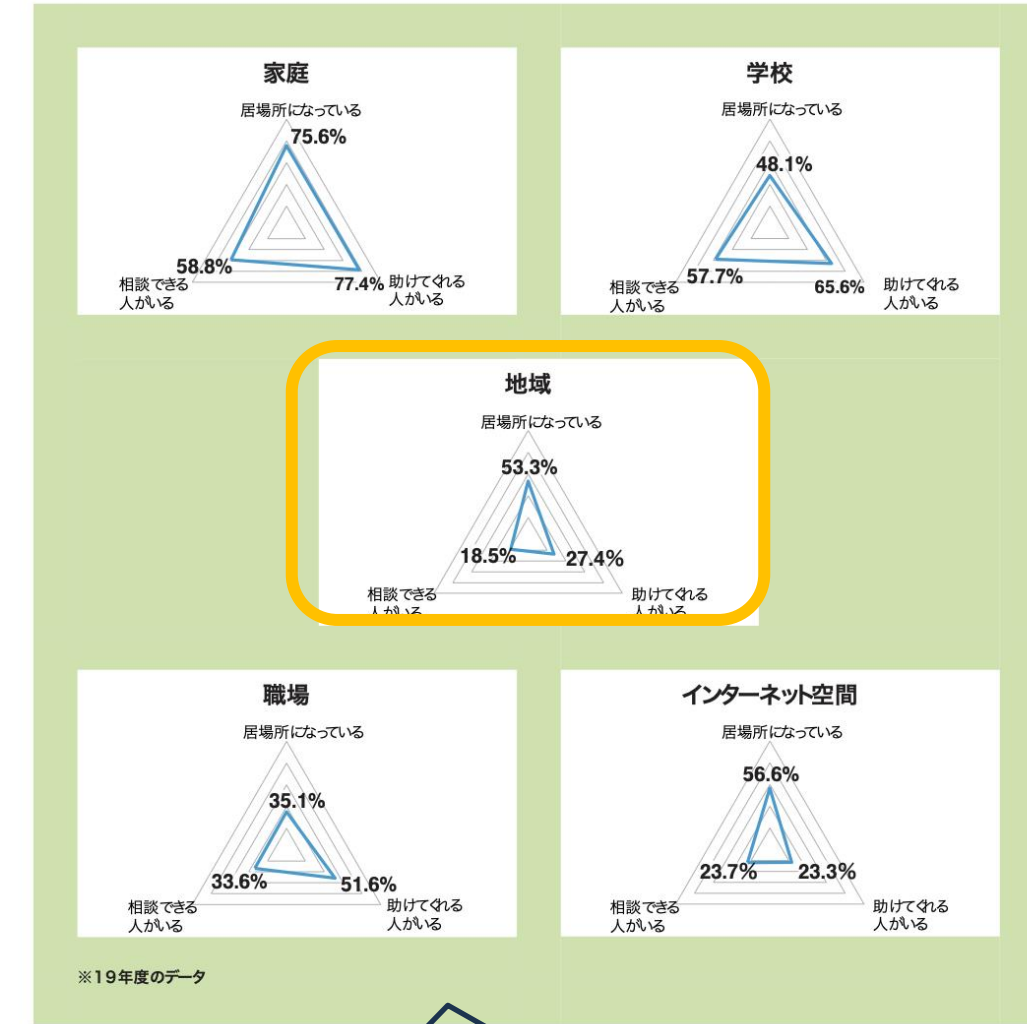
2. 周囲について

①居場所 — 次の場所が、ほっとできる場所、居心地のよい場所等になっている



しかし、地域の中に居場所を見出せているこどもは、家庭や学校に比べて少ないだけでなく、インターネット空間よりも少ない
↓
歩いていける範囲にたくさんの居場所と感ぜられる場のある地域づくりを

④場ごとの認識



・「結果としての居場所」の減少
例：住宅街の空き地、駄菓子屋、友人宅...

・「目的としての居場所」を作ろうとする取組み(居場所づくり)の増加
例：こども食堂、プレイパーク...

(こども食堂)

こどもの自己肯定感や社会性が有意に高まる

	学校は安心できる場所である	家庭は安心できる場所である	こども食堂は安心できる場所である	公共施設(児童館など)は安心できる場所である	なんでも悩みを相談できる人がいる	困った時に助けてくれる人がいる	他の人に言えない本音を話せる人がいる	誰とでもすぐ仲良くなれる方だと思う	他人もある程度信頼できると感じる	人は信用できないと思う
参加回数6回以上	-0.041	0.021	0.039**	-0.019	0.047	0.067***	0.087***	0.036	0.027	-0.007
参加期間1年以上	0.002	-0.008	-0.002	-0.028	0.054*	0.046**	0.052*	0.086***	0.042	0.008

(有意に多い結果)

参加回数が6回以上だと、5回以下に比べ

「こども食堂は安心できる場所である」

「困った時に助けてくれる人がいる」

「他の人に言えない本音を話せる人がいる」

20

参加期間が1年以上だと、1年未満に比べ

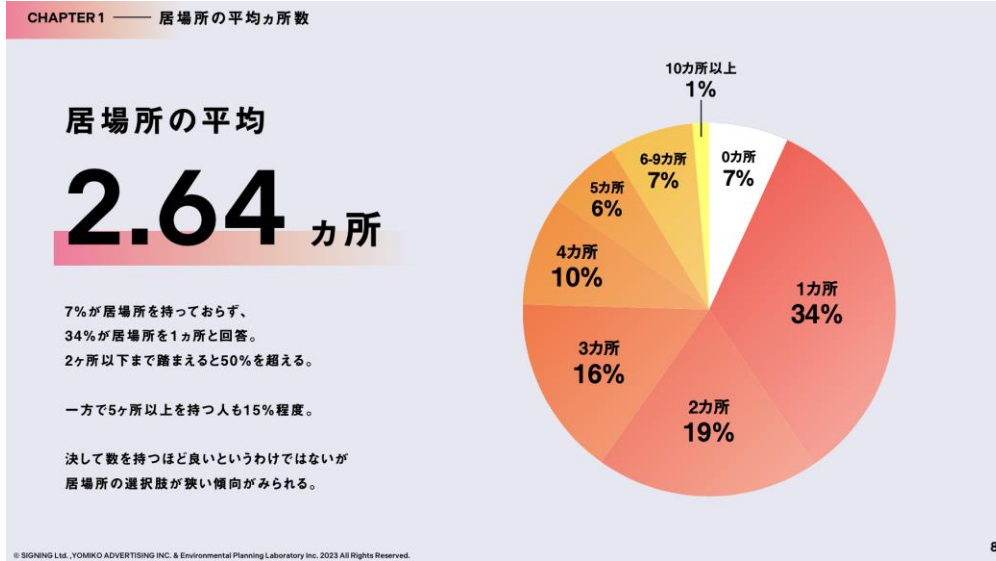
「なんでも悩みを相談できる人がいる」

「困った時に助けてくれる人がいる」

「他の人に言えない本音を話せる人がいる」

「誰とでもすぐ仲良くなれる方だと思う」

(参考)大人も同様



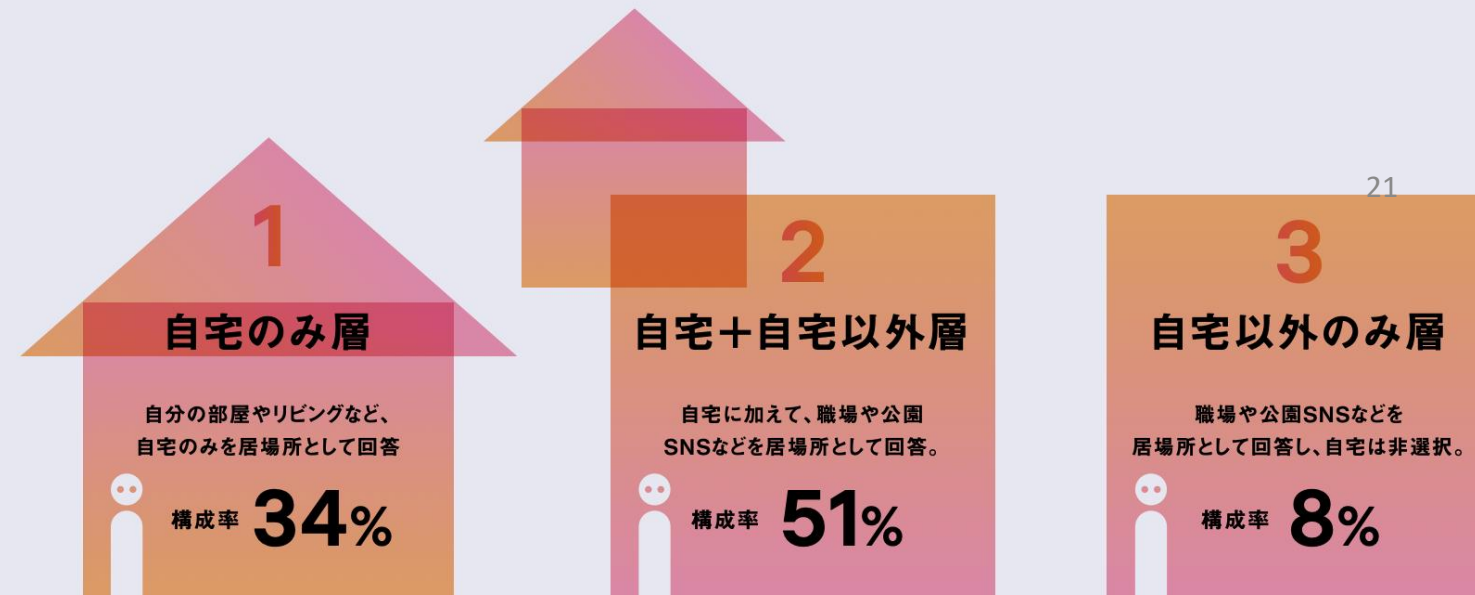
「自宅のみ」「自宅以外のみ」に比べて、「自宅+自宅以外にも居場所がある」人の方が、幸福度が高い



世界銀行も、災害復興過程において「居場所」が果たす役割に注目

CHAPTER 1

「自宅」に集中する「居場所」。「自宅のみ」でも「幸せ」なのか？
「自宅」以外の居場所を持つと「幸せ」に影響はあるのか？ 以下の3層で幸福度との関係を分析。



Strengthening community-driven preparedness and resilience in Philippines and Nepal by leveraging Japanese expertise and experience

Ibasha



〈交流の居場所〉が生み出す**多様な機能** その1

要因	カテゴリ	N (%)		P値*2
		参加条件		
		なし (N = 969, 78.5%)	あり (N = 265, 21.5%)	
参加者を支援機関につなげた経験	あり	401 (41.4)	105 (39.6)	0.606
	なし	568 (58.6)	160 (60.4)	



課題のある子への支援

参加条件なし(どなたでもどうぞ!の多世代交流・地域交流活動型)のこども食堂でも、「参加者を支援機関につなげた経験」は、参加条件ありのこども食堂と、基本的には変わらない(厚労科研調査)。
→交流中心だと発見機能が弱くなる、というわけではない。

保護者支援

- ・保護者間の交流による家族関係支援
- ・虐待予防(こども家庭庁見守り強化事業)
- ・ひとり親食支援(こども家庭庁)

高齢者の健康づくり

- ・写真は98歳の「はる」さん(香川県多度津町)。昼間はデイサービスに通い、こども食堂の日にはこどもたちと一緒に盛り付け等をするのが楽しみで、欠かさず来る。
- ・こどもとの関わりの中で高齢者が元気になる機能に着目して、(株)SOMPOケアは全国450事業所すべてでこども食堂を実施

その他:食育、防災、地域コミュニティ形成

〈交流の居場所〉が生み出す多様な機能 その2

地域コミュニティ維持・強化機能



上：福井県美浜町。集落単位でこども食堂を開催。かつての「寄合」機能の回復を目指す

中：離島でも開設が相次ぐ

右：富山市黒瀬谷地区。コミュニティ機能が集中する一角で、保育園閉園、小学校閉校する中、住民が提案したのは「食堂・カフェの運営」だった

**こども食堂
オンライン
離島サミット**
7月22日(土) 13時~15時

離島にもこども食堂ってあるの？実は離島でもこども食堂がどんどん立ち上がっています。日本の島嶼部でこども食堂の立ち上げに関わられているみなさんを集めて、離島ならではのエピソードも伺いながら、離島でのこども食堂や、多世代交流の場の在り方を考えるサミットを開催します。

対象 離島でのこども食堂立ち上げや運営に興味のある方/社会福祉協議会 行政/中間支援団体/こども食堂運営者 など

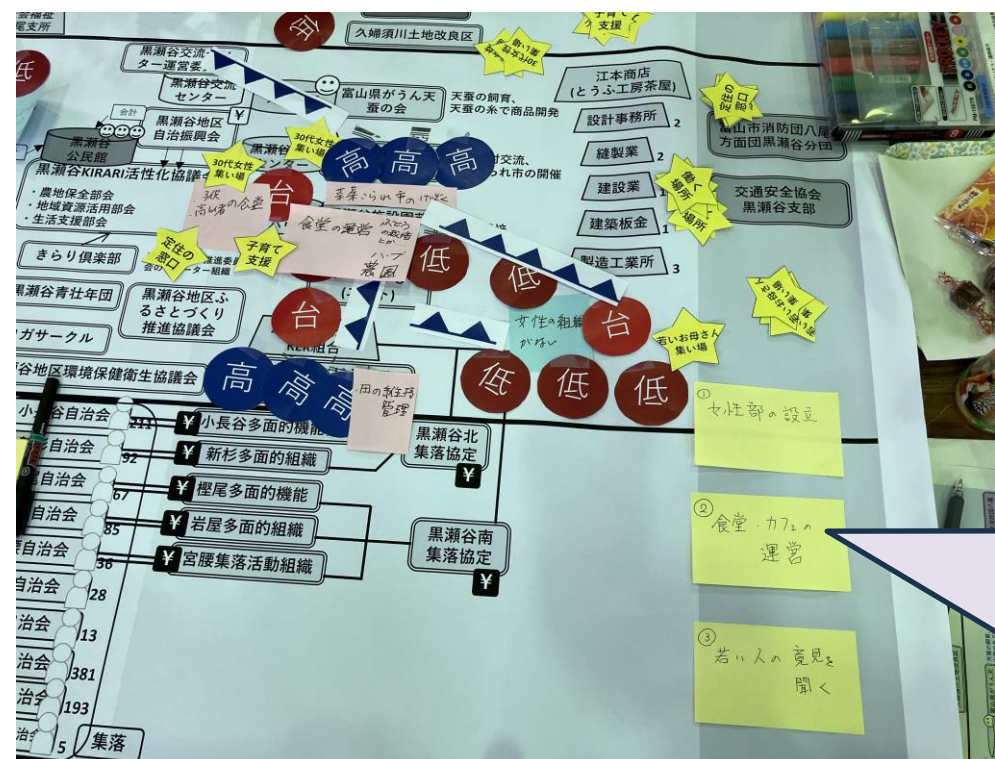
オンライン開催!

お申し込み
下記フォームより
お申し込みください

<https://onl.la/Q3LBNpR>

締め切り：2023年7月15日まで

主催 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
担当 森谷・東岡 お問い合わせ先 tokyo_pj@musubie.org



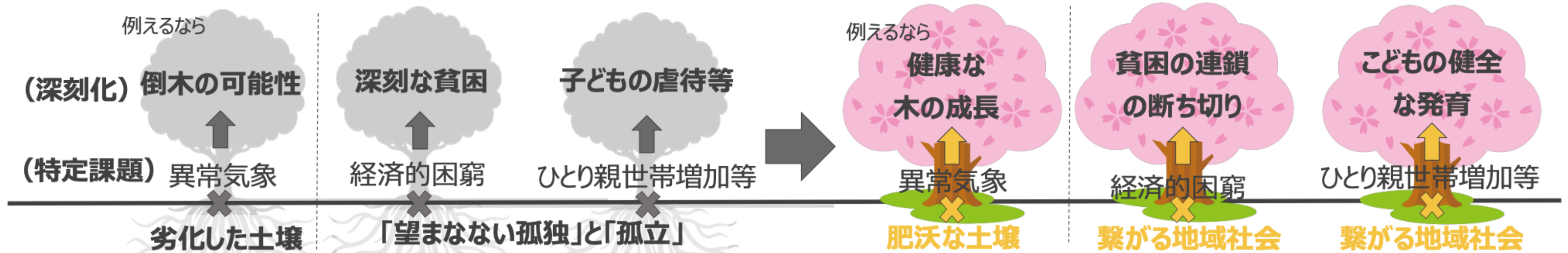
こども食堂の人口比全国3位は、沖縄県、徳島県、鳥取県

交流の居場所の**価値**

「望まない孤独」と「孤立」が、特定課題と結びつくことで課題が深刻化・複雑化

現 公的な社会福祉サービスは、「共同体（土壌）」という基盤の上で、
状 個々のリスクに個別に対処。しかし、その基盤は、既に崩壊しつつある。

課題を根本的に解決するためには土壌改良が不可欠



「望まない孤独・孤立」が溢れる地域社会 = 乏しいソーシャルキャピタル

↑
血縁、地縁、社縁で結びついてきた「共同体主義」の崩壊

- ◆地縁（地域の相互扶助）→（'70年代～）過疎化や地域組織の衰退等
- ◆社縁（終身雇用制度等）→（'90年代～）雇用不安定化、非正規労働の増加等
- ◆血縁（家族等の助け合い）→（'70年代～）少子高齢化、未婚化、一人家族化等

人々が繋がる地域社会

= 豊かなソーシャルキャピタル

⇒社会としての基礎的な免疫力が向上。

その1つの形態が、
日本では「こども食堂」

「こどもの居場所づくり指針」における「4つの基本的な視点」

こどもの居場所づくりに関する指針(答申素案)の概要②

こどもの居場所づくりを進めるにあたっての基本的な視点

各視点に共通する事項

- ① **こどもの声を聴き、こどもの視点に立ち、こどもとともにつくる居場所**
 - こどもの声を聴き、「居たい」「行きたい」「やってみたい」というこどもの視点に立ち、こどもとともに居場所づくりを進めることが重要
- ② **こどもの権利の擁護**
 - こども基本法等を踏まえ、こどもの権利について理解し守っていくとともに、こども自身がその権利について学ぶ機会を設けることも重要
- ③ **官民の連携・協働**
 - 居場所の性格や機能に応じて、官民が連携・協働して取り組むことが必要

こどもの居場所づくりにおける 4つの基本的な視点



これらの視点に順序や優先順位はなく、相互に関連し、また循環的に作用するものである。

ふやす

～多様なこどもの居場所がつくられる～

- ・地域において既に居場所になっている資源や居場所を持てているか等実態を把握する。
- ・学校や児童館、公民館など既存の地域資源を柔軟に活用して居場所づくりを進める。
- ・新たに居場所づくりを始めたい人を、多面的にサポートする。
- ・居場所が継続されていくために、ソフトとハードの両面で支える。
- ・災害においてこども・若者が居場所を持てるよう配慮する。

つなが

～こどもが居場所につながる～

- ・居場所に関する情報をまとめ、可視化し、見つけ選びやすくなるようにする。
- ・こども・若者の興味に即した居場所づくりにするなど、こども・若者が利用しやすい工夫を施す。
- ・自分で居場所を見つけにくいこども・若者も、幅広い手段を講じ、居場所につながるようにする。

みがく

～こどもにとって、よりよい居場所となる～

- ・こども・若者の心身の安全が確保され、安心して過ごせる居場所づくりを進める。
- ・こども・若者が居場所づくりに参画し、こども・若者とともに居場所づくりを進める。
- ・どのように過ごし、だれと過ごすかを意識した居場所づくりを進める。
- ・居場所同士や関係機関が対話し、連携・協働した地域全体の居場所づくりを進める。
- ・環境の変化によるこども・若者のニーズに対応した居場所づくりを進める。

ふりかえる

～こどもの居場所づくりを検証する～

- ・居場所づくりの検証の必要性は高いが、効果的な指標は定まっておらず、今後の重要な検討課題である。こどもの居場所の多様性と創造性を担保しつつ、理念を踏まえた指標の検討が必要である。

全国知事会

「子ども・子育て政策を強力に推進するための提言」

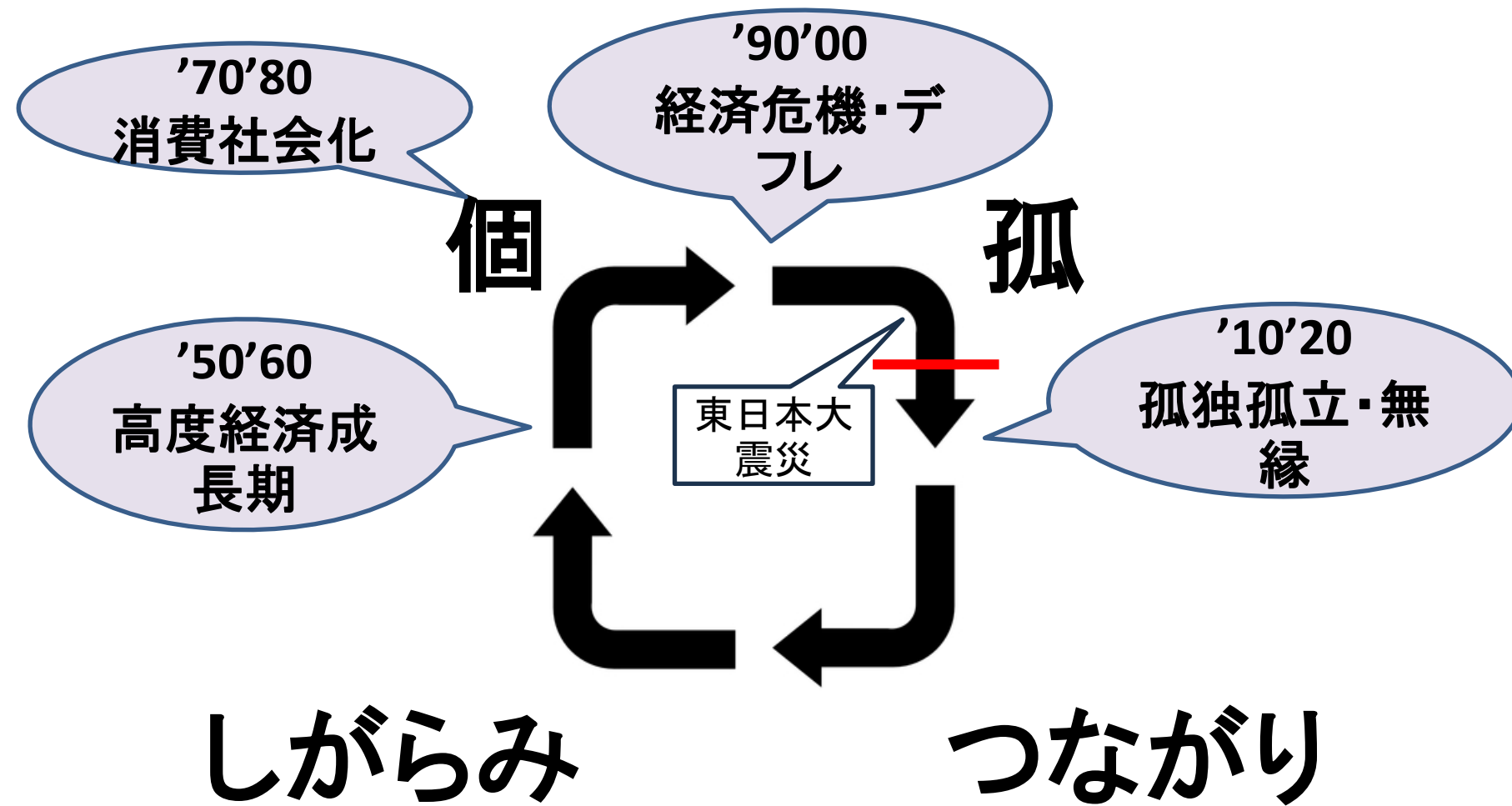
(2023年11月13日)

・社会全体で子どもや子育て当事者を支える地域づくりの重要性について理解を深めるとともに、

子どもたちが安全で安心して過ごせる子ども食堂をはじめとした子どもの居場所を広げ、

社会と関わる力を養い、自己肯定感や自立に向けて生き抜く力を育む環境整備を推進すること。

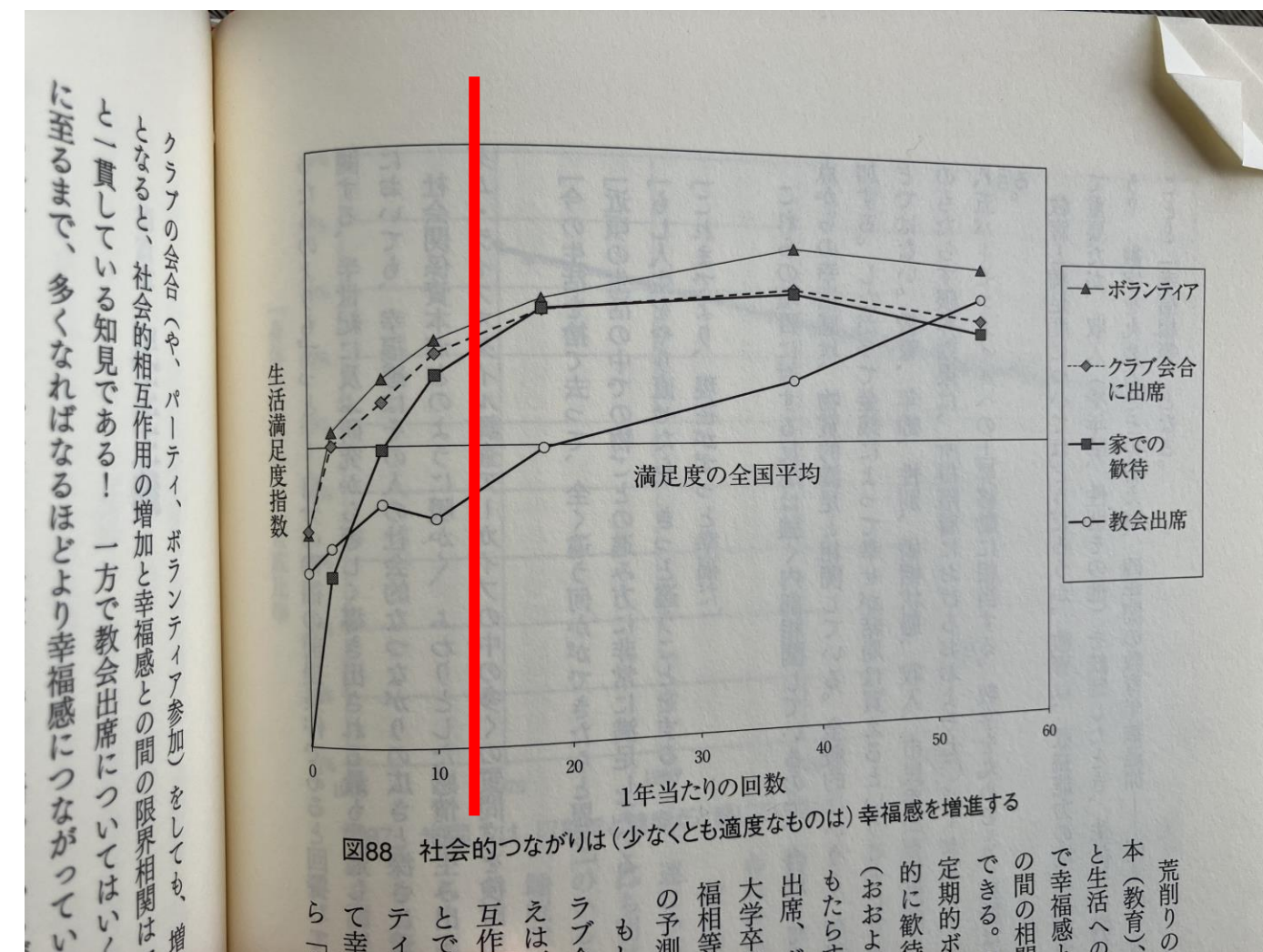
目指すべきは「SNS以上しがらみ未満」のつながり



26

高度経済成長期より半世紀を経て、時代は「つながりを求める」フェーズに入っている。しかし人々は、つながりがしがらみに転化するリスクもわかっている。だから伝統的な地域団体には寄ってこない。

しかし、ゆるめ(頻度少なく、出入り自由)のつながりは、以前よりも強く求められている。



ロバート・D・パットナム『孤独なボウリング』(2000、邦訳2006)より。月1回程度の参加でも、つながりは幸福度を増進する。居場所で知り合った人たちは、道端で会ったときにも声をかけあう。知り合っていれば、こどもに声をかけても不審者扱いされない。自分が自宅で倒れたときに誰か見つけてくれるだろうかと不安になった際に「誰かの顔」が思い浮かべば、ごきげんで過ごせる(レジリエンス)

こどもの居場所づくりによって目指すべき**方向性**

〈どこも〉

より多くの子に
よりたくさん居場所を
+

〈どこか〉

どんな子にも
少なくとも一つの居場所を

家庭も学校も、地域も公園も
友だちの家も駄菓子屋も、
図書館もコンビニも、
児童館も放課後子供教室も、
プレイパークもこども食堂も...

AもBもCも...「どこも」
成育局の夢

家庭や学校がダメなら第三の居場所、
リアルがダメならオンライン、
出られないなら訪問、
どこもなければどこか創る...

AがダメならB...「どこか」
支援局の夢

4. 財団としてこれから取り組みたいこと

多世代交流を促進し、人と人とのつながりを育みます

地域に入ってコーディネーター

「**どこも**」の視点で
こどもの
居場所を増やす

多世代交流
モデル事業

どこでも
居場所助成

事例紹介
情報発信

多世代交流の活動を応援

居場所をつくる仲間を増やす

むすびに

多くのみなさまからお話を聞かせていただきました

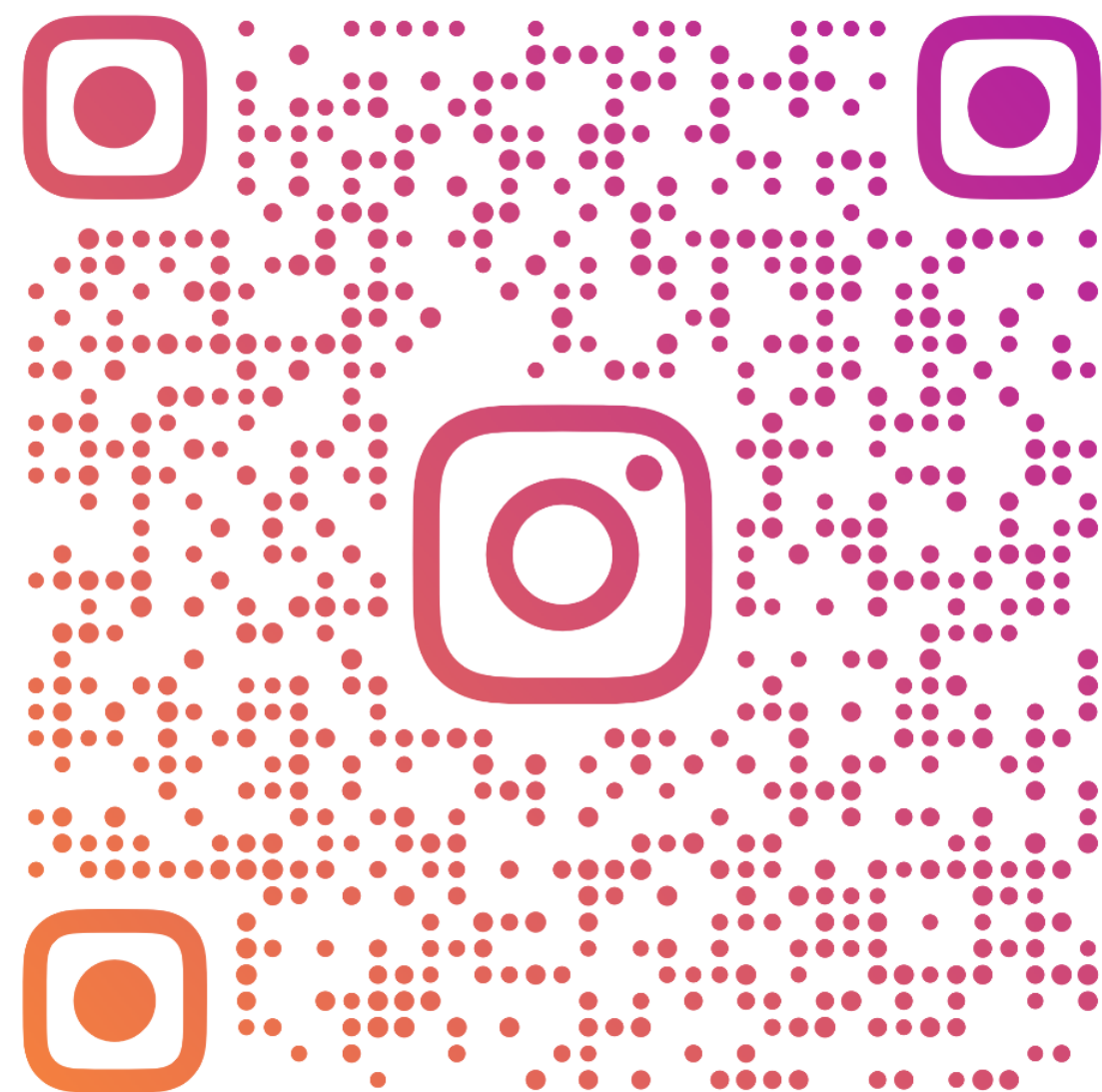
※写真は一例です



当財団は、令和7年4月の公益法人化を目指しています。

引き続き、支援団体のみなさまと連携・協働して、こども・子育てを支える社会づくりを進めていきたいと考えておりますので、ご指導のほど、よろしくお願いたします。

ご清聴いただき、ありがとうございました。



S_KODOMO_ZAIDAN



Instagram、X、Facebookを
やっています！
随時更新をしておりますので、
是非、フォローを
お願いします！